

# 土木と建築の間

神戸芸術工科大学 学長

## 松村 秀一

Shuichi Matsumura

### 一枚の写真

土木分野唯一人の日本学士院会員、東京大学名誉教授の藤野陽三先生が、去る六月お亡くなりになった。ここに謹んで哀悼の意を表します。

私自身は長くお付き合いさせていただいたので、先生との思い出はこの紙面では語り尽くせない。学科は違ったが、私がお互の方と写った写真では、藤野先生とのものが一番多い。今回取り上げる写真はその内の一枚だ。

藤野先生がリーダーを、都市工学の大方潤一郎先生と建築学の私がサブ・リーダーを務め、社会基盤学専攻、都市工学専攻、建築学専攻の

している。都市工の例えは明らかに謙遜の表現だが、土木と建築の例えには老教授らしい味わい深さがあった。

### 切り込み隊長

二十一世紀初頭、文部科学省が「21世紀COE」の拠点形成の提案を募集するとの発表があった。東京大学の建築学専攻では、丁度その少し前から新しく専攻内横断型で取り組むべきテーマを議論し始めていた。初めは、この内容をブラッシュアップして応募しようという考えもあったが、いろいろな情勢判断から、ここは思い切って、建設系の三専攻が組んで一つの応募案を提出するのが適切だと、当時の専攻長が判断。先の建築学専攻内の議論を取りまとめていた私は専攻長に呼ばれ、「こちらには案があるから、その案を携えて、君が建築の全権代表というか切り込み隊長として、社会基盤と都市工学の二専攻に声を掛け、三専攻案の取りまとめの中心になつてきてほしい」という命を受

三専攻が中心となって二〇〇八年から活動していた五年間のグローバルCOEプロジェクト「都市空間の持続再生学の展開」を終えるにあたって、二〇一三年三月、都合のつくメンバーが集まり会食した際の記念写真である。

三専攻の先生方がこれ程の人数参加し、それぞれにリラックスしている写真はそうはない。藤野リー

ダーのご人徳が人の集合の形で表現されたような大事な写真である。

### 「船に例えろと…」

同じ「建設系」の専攻・学科なのだから、仲良く集まった写真があるのは自然なことだと思われる読者の方もおりだろうが、長らくこの三専攻、殊に社会基盤（以前の「土

木」と建築の間には、異なる点も多く、さほどの交流はなかったように思う。

もう三〇年ほど前のことになるが、都市工学のある教授が定年退官される際に催された三学科の懇親会の席上、その老教授が三学科を船に例えられたことがあった。

「土木さんは大きな港に横づけして来るタンカー。その大きなタンカーに全員が乗っておられる。建築さんは屋形船。一杯やりながら、それぞれの先生が勝手な方向を見て楽しく優雅にやっておられる。うちは縄の切れかけた筏（いかだ）。バラバラにならないように皆で必死になって急流を下っている」。

概ねそういう内容だったと記憶



2013年3月、グローバルCOE・東京大学「都市空間の持続再生学の展開」の打上げ時の記念写真。最前列中央にリーダーの藤野陽三先生。左隣に髪をたくわえたサブ・リーダーの大方潤一郎先生、右隣に著者。

けた。

私の声掛けで始まった三専攻の話し合いの場には、それぞれの専攻から予想していた以上の数の先生方が集まり、ある程度のまとまった案を得るまで、意見交換を重ねた。

タンカーと筏（謙遜の表現）と屋形船ではあったが、最後は同じ方向を見定めて着実に前へと進んでいた。肝心なのは対話である。切り込み隊長としての学びであった。

### 継承されたし

21世紀COEに提出したのは「都市空間の持続再生学の創出」。リーダーは、当時都市工学専攻教授で工学系研究科長もお務めだった大垣真一郎先生にお願いし、サブ・リーダーとして都市工の大方先生、土木の家田仁先生、建築の切り込み隊長の三名がお支えすることになった。そして、五年におよんだ21世紀COEが期待以上の成果を上げて終

わるか終わらないかの内に、次の文部科学省プロジェクト「グローバルCOE」の募集が開始された。既に五年間の各方面での協力関係を経験していたから、今回も三専攻が組んでプログラムを検討するということは、議論の余地のないところであった。

今度の五年プロジェクトのリーダーは土木から出すことになり、21世紀COEで部会長をお務めだった藤野先生が選任された。サブ・リーダーは都市工の大方先生と建築の私。

藤野先生の三専攻全体に対する様々な気配りは素晴らしいもので、先述したようにそのことがこの写真に写し出されていると思う。

この一〇年の経験で、異なる三専攻の関係はとも風通しの良いものになったと思うし、これからその財産を生かして、大いに対話や交流を続けてほしい。晩年の藤野先生とはよくそんな話をしていた。

ありがとうございました。合掌。